

I 実践

1 研究主題

心豊かな児童の育成を目指した人権教育

～一人一人を大切に第2・3学年の学級経営を通して～

(1) 主題設定の理由

本校では、「児童一人一人の可能性と人間性の基盤づくりのために」を基本理念として、知（かしこく）・徳（なかよく）・体（たくましく）の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図っている。それを受けて人権教育では、「人権教育の目標や内容等を、各教科・道徳・特別活動の特質に応じて、指導計画に適切に位置付け、指導の充実に努める」を目標の一つとしている。

そこで、学級活動や生活科の時間、道徳の授業の充実を中心に、様々な体験や学習を通して思いやりの心情を養うとともに、分け隔てなく誰とでも仲良くできる児童の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 主な研究内容

- ア 一人一人が安心して楽しく過ごすことのできる学級づくり
- イ 学級の実態を把握し、心の教育の充実を図る道徳の授業
- ウ 人権教育の目標を基盤にした教科・特活指導
- エ いじめについて考える、人権教室

2 実践内容

(1) 一人一人が安心して楽しく過ごすことのできる学級づくり

ア 握手であいさつ、朝の会・帰りの会

朝の出会いと帰りには、一人一人と握手をしてあいさつしている。1日のスタートは「元気に登校できてよかった、あなたに会えてうれしい」1日の終わりは「1日よくがんばったね」とそんな気持ちを込めて、声をかけている。朝の会や帰りの会では、スピーチを行い、相互理解に役立てている。

イ 連絡帳の活用「せんせい あのね」

連絡帳を使って「せんせい、あのね」という交換日記を行っている。先生に話したいこと・よかったこと・うれしいこと・こまったこと・家でのこと・学校でのこと・感じたことや考えたこと、何でも書いてよいことになっている。個人差はあるが、児童理解や児童との関係の深化に役立っている。連絡帳なので、保護者も読むことができる。保護者からの相談や感想も寄せられている。

ウ おめでとう乾杯、誕生日

誕生日の児童と、給食の時間に牛乳で乾杯をする。ささやかではあるが、楽しい時間である。

エ 学級のめあて「なかよく」に向かって

学級のめあてには「なかよく」を掲げている。2年生に進級し、学級編制もあり、児童は友達の輪をひろげている。席替えでは、別のクラスやまだ仲良しになっていない子とペアになろうと声をかけている。そして、次の席替えの前には、ありがたの言葉をミニレターにして伝えている。児童同士の相互の関係をつくる力が不十分なためのトラブルはたびたび起こるが、相互の訴えをよく聞き、話し合っ解決できるようにサポートしてきた。兄弟も少なく、トラブルの経験自体が少ない児童が多いので、トラブルを避けるというよりも、トラブルを経験しながら成長できるようにと願いながら指導している。

(2) 学級の実態を把握し、心の教育の充実を図る道徳の授業

「おじいさんこんにちは」（ぶんけい）2－（1）礼儀

近所のおじいさんにあいさつをしたことでおじいさんがどんなに嬉しく思ったかがわかり、主人公はあいさつをする喜びをかみしめるという内容である。円滑な社会生活を送るためには、相手を尊敬していく礼儀が大切である。互いの立場を尊重し合っ、心のこもったあいさつや時と場に応じた言葉づかいを日ごろから心掛けようとする気持ちを高めることをねらいとしている。授業では、役割演技を取り入れたことにより、気持ちのよいあいさつの大切さをより実感できたのではないかなと思う。

(3) 人権教育の目標を基盤にした教科・特活指導

ア 豊かな心を育てる読み聞かせ

図書的时间には、司書の先生からお話会として読み聞かせを継続して実施していただいている。また、読書週間には、図書委員会の活動で、読み聞かせがあった。PTAの文庫委員の計画により、お母さんたちがクラスを訪問してくれた。友達のお母さんに読んでもらう楽しみがあった。読み聞かせの効果は勿論だが、様々な人との交流も、豊かな心につながったと考えている。

イ 生活科での「人」との関わり

2学年の生活科では、自然との関わりに加えて、学校や町でたくさんの人との関わりができるように、年間を通して計画的・継続的な活動の展開を図ってきた。自分自身の成長や身近な地域に改めて目を向けさせることにより、発見や誇りが生まれ、思いやりや自己肯定感ををはぐくむことができるのではないかと考えたからである。

1年生との交流では、まず入学式に、昨年自分たちがしてもらって嬉しかったことを思い出しながら、お祝いの歌を発表することができた。また、昨年育てたあさがおの種と学校案内に使うお祝いのメダルをプレゼントした。学校案内やその後の一緒に遊ぼうでは、1年生に優しく接することができ、2年生としての自覚も高まった。秋には、「なかよしフェスタ」に招待し、自分たちで作ったおもちゃで遊ばせることができた。1年生が喜んでくれる姿を見て、大きな喜びと自信につながった。1学期の「レッツゴーまちたんけん」では、方面ごとにグループで探検に出かけ、交流センターなど地域の施設に立ち寄り見学をしたり、周りの自然を観察したりした。保護者の協力を得て、グループ活動を行うことができた。2学期にはバスを使って鶴の岬とパノラマ公園に出かけた。自分の住む町の素敵をたくさん発見できた。3学期には、自分のこれまでの成長を振り返り「できるようになったよ」というアルバムにまとめることにしている。



1年生や地域の人との交流を通して、人とのつながりを大切にしようとする思いを強くすることができたのではないかと考えている。

ウ 異学年交流 なかよしタイム

昼休みと清掃の時間を通して長い休み時間にし、1・6年、2・4年、3・5年の兄弟学級で一緒に遊ぶ「なかよしタイム」を学期に1回ずつ実施している。実施後に、国語の「ありがとうをつたえよう」の指導を兼ね、手紙を書いた。楽しい時間であったが、「たたかれていやだった」「遊びを説明してもふざけていて聞いてくれない」等の訴えがそれぞれの学年から出た。お互いの気持ちを考えられるようにいねいに指導した。



(4) いじめについて考える、人権教室（3学年）

「いじめをなくそう人権教室」と称した小学生を対象にした人権教室が、3学年の全クラスで実施された。目的は、「いじめ」という行為を例に、登場人物それぞれの気持ちを考えることを通して、他人への思いやりやいたわりの心といった人権尊重意識を養うことである。アニメビデオ「いじめはゼッタイわるい」を鑑賞し、感想をもとにみんなで話し合いをした。いじめについて、それぞれが深く考えることができた。

＜ワークシートより＞

- ・私が浩君みたいに言われたら、「いじめは悪いんだよ。」と言うと思う。健一君は先生に、「茂樹さんと広平さんにいじめられてました。」と言えたのがすごいと思いました。
- ・ぼくもしあんなことがあったら、大人の人に知らせよう。他の人がいじめられていたら、すぐに先生や大人の人に言って助けてあげよう。
- ・いじめがおこったら、先生か友だちかお母さんにそうだんしたりすることが大切なんだなあと思いました。あと、やっている人からにげるのも大切なんだなあとおもったりしました。いじめにあった人は心にきずがのこってしまうからいじめはぜったいにだめなんだなあとおもいました。
- ・いじめはぜったいにだめ。いじめは死ぬほどつらいんだなあと思いました。もしぼくだったら、いじめられていることをだまっていけないで、先生やお家の人に言って、いじめをとめたいです。

3 成果

限られた時間と場所での体験や学習であったが、児童は様々な人と関わる体験を通して、相手の気持ちに目を向けるようになり、優しい気持ちが育ってきている。また、友達との関わりの中で失敗や間違いがあってもごまかしたりせずに正直に自分を見つめ直すことができ、何事も諦めずにがんばっている姿が見られる。相手の気持ちを考えながら励まし合ったりする様子も以前より増えたように感じている。学習・生活全般を通して、友達のよさを発見し誰とでもなかよくしようとする姿勢が育ってきている。

II 今後の課題

子どもたちの人権意識を高めるためには、日々の学校生活の中で、児童一人一人が、「人・もの・こと」との関わりの中で、人としての生き方・感じ方のよさを求めていけるような場の設定を行っていきたい。そして、新たな発見や気づきをつくり出せるように児童の実態に合った具体的な体験活動を組み入れたり、意図的に学習活動の構成・展開を図ったりするようにしていきたい。